

会長: 東 岳也

みなさん、こんにちは。2730 ジャパンカレントロータリーEクラブ第 24 回例会を開催いたします。

20 年前、1995 年 1 月 17 日は私たちにとって忘れることができない阪神・淡路大震災が発生した日であります。

個人的にも、震災後 1 か月が経過した 2 月 17 日から 20 日まで 4 日間でありましたが、労働組合の要請で兵庫県へボランティアに行っておりました。

当時まだ現地までの交通機関も確率はされておらず、鹿児島から空路広島まで、その後高速バスを使い岡山まで、その後は兵庫まで電車で行き、最後は徒歩で宿泊所となっていた倒れずに残っていたビルの会議室へ向かっていました。

途中には屋根をビニールシートで被せた家が多くなり、その後は崩れた建物ばかりでありました。

現地では運輸組合が和歌山の温泉組合の温泉をローリーで運び、漁協から借りてきた養殖用の水槽に私たちがプロパンで温め治したお湯を足しながら、車いす生活の高齢者の方を避難所に迎えに行き、診療を受けてもらい、許可をもらってから、看護組合の方々が入浴介助を行うというものでありました。

1 か月ぶりに初めて入浴が叶った方もおり、お礼を言われた時の顔は忘れられません。

ロータリーでも各地から支援が集まり、クラブでもおにぎりや温かな食事を用意して支援をしたり、坂道の多い現地で有効な原動機付バイクを贈り活用されました。

被災地区の活動では 1995 年にロータリアン、ローターアクター、インターアクターの勤労奉仕によって親を亡くした子供の収容施設として設立された「ロータリー子どもの家」や、1995-1997 年に震災で住居を失った留学生のために同じように勤労奉仕によって建てられた「ロータリー・フレンドシップハウス」、震災復興のために必要な町の建築技能者を短期間で養成するために設立・運営が行われた「建築技能アカデミー」等々、金銭的な支援だけでなく様々な援助をロータリーが行った記録が残っております。

よく金銭的な支援だけが目に見えてまいります、職業奉仕という他団体にはない形態を持つロータリーだからこそできる活動を、ロータリー月間であるこの 1 月に改めてそれぞれの会員が振り返り、学ぶことで今後の私たちの活動にも活かしていけるのではと思います。

よろしくお願いいたします。